

目的 高血圧症の予防や進行防止を目的として、各種油脂や食品成分と血圧との関連につき検討してきた。今回は起源の異なる各種レシチン類について、高血圧自然発症ラット(SHR)の血圧への影響につき報告する。

方法 実験には雄SHRを用い、対照は市販粉末飼料群とした。実験1)生後13週齢の時、1群8頭ずつ対照群と対照飼料に大豆レシチンを5%添加した実験群とした。実験2)生後12週令の時、1群8頭ずつ対照群と対照飼料に卵黄レシチンを5%添加した実験群とした。実験3)生後11週齢の時、1群10頭ずつ対照群とオキアミレシチンを5~10%添加した実験群とした。実験4)生後18週齢の時、1群4頭ずつ対照群とオキアミレシチン25%を添加した実験群とした。実験期間は2または3週間で、その後全群を対照飼料で2週間飼育した。血圧は毎週1回ブレチスモ式ラット血圧計で測定した。

結果 実験1)実験開始時の血圧は $174 \pm 2$  mmHgであり、3週後には対照群は $189 \pm 5$ と上昇したが、実験群は $171 \pm 2$ と上昇が抑制された。実験2)実験開始時の血圧は $163 \pm 5$  mmHgであり、3週後には対照群は $190 \pm 11$ と上昇したが、実験群では $169 \pm 4$ と明らかに低レベルにとどまった。実験3)実験開始時の血圧は $164 \pm 6$  mmHgであり、3週後に対照群では $184 \pm 7$ と上昇したが、実験群では $176 \pm 6$ と抑えられた。実験4)実験開始時の平均血圧は $200$  mmHgであり、対照群はその高レベルを維持していたが、実験群では飼料投与1週目から明らかに低下し、2週目も有意に低値であった。いずれの実験も実験飼料から対照飼料に切換えると、両群間の血圧の差は無くなった。